

まつもと 公民館報

発行

2016

1/30

●問い合わせ 生涯学習課・中央公民館 TEL 32-1132 FAX 37-1153

●編集 公民館報編集委員会

●印刷 株式会社プラルト



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 23

= 子どもに伝えたいお正月の遊び = 羽根突きには子どもの成長を願う思いが!!

お正月の遊びには
願いがあった

1月3日の松本城新
春開門式は、快晴の穏
やかな天気にも恵まれ
て、大勢の市民が訪れ
ました。

開放された本丸庭園
内は、太鼓の演奏・羽根
突き・コマ回し等で大賑
わい。特に羽根突きは羽
子板を借りる人たちが
で、行列ができていま
した。

羽根突きの由来は定
かではありませんが、
江戸時代には邪気を払
うと信じられていまし
た。羽根に使うムクロジ
の実は「無患子」と書
き、子どもが患わない
魔よけとして、羽子板
を贈るようになったと
いいます。

こうして、羽根突き
は1年の厄をはね、子
どもの健やかな成長を
願うものとして、親し
まれてきました。いつの
世も、子を思う親の願
いは同じですね。

サタコン35周年を引継ぐ

サタコンの愛称で親しまれ、あがたの森文化会館で行われているサタデーコンサートが昨年12月、35周年記念150回特集と銘打ち開催されました。夜間にもかかわらず200人を超える愛好家が演奏に聞き入り、予定時間を大幅にオーバーするほどの盛況でした。

発足から現在まで

記念すべき第一歩を踏み出したのは昭和55年（1980年）1月、松本市あがたの森文化会館が開館し、市民に開放されたことが契機となり、第1回のコンサートが開催されました。

文化財として保存されている講堂や校舎はヒマラヤスキの木立に囲まれ、歴史を感じさせる雰囲気コンサート会場としてふさわしいと思われ



熱演のコーラスグループ

ました。また当時は他に文化施設は市民会館しか無く、ここが選択されました。

当初演奏の邪魔になる音には気を遣い、付近の道路を走行する車輛の騒音を防ぐため、講堂の窓を二重にしたり、演奏時は暖房を停止して、機械音を消すなど現在の様な静かなコンサート会場を作り上げてきました。

サタコンの位置づけ

昭和60年に松本市音楽文化ホールがオープンし、一時は幕引きも検討されましたが、演奏者が身近に見られるなど、市民に手近な行事として継続することとなり、平成15年（2003年）に100回記念、今年35周年（150回）とほぼ年4回のペースで続けられています。

楽都を代表するにふさわしい「セイジ・オザワ松本フェスティバル（旧SKF）」、「音

今後の課題等

発足以来実行委員として活躍し、自らも合唱指導者の牛山勝雄さんは、今後の課題として「5人の運営委員が高齢化しているので、若返りを図りたいことや、会場が音響面でいまひとつであるという文化財のデメリットもあるが、工夫してうまく利用していきたい、またお互いの顔が見えるコンサートの良さをさらに活かし運営をしていきたい」と

楽文化ホールコンサート」そして「あがたの森サタデーコンサート」は、それぞれ独自の良さを活かし、役割を果たしています。プロ、アマを問わない出演者のなかには、サタコンの出演が励みになり、その後、活躍の場を広げている公募合唱団もあります。



文化財らしい会場入口

サタコンの未来

35年前市民が中心になって始まったサタコンは、最初は数人だった来場者が、周りの励ましやボランティア実行委員の働き、来場者の応援で、近年は会場がいっぱいになるまでになりました。現在もボランティアをはじめ、立場にとられない人たちの力が結集され、活動が続いています。これからも回を重ねて、松本の



熱心に聞き入る

楽都の一翼を担う行事として、継続して欲しいと思います。

ちよこつ 松本さんぽ

松南地区公民館の「カリヨン」にイルミネーション点灯

松南地区公民館にある複数の鐘を組み合わせた「カリヨン」にイルミネーションが、3年ぶりに点灯しました。以前は、「松本東ライオンズクラブ」が企画していましたが途絶えてしまい、松南地区町会連合会の皆さんが、地域の冬を盛り上げようと、電球を譲り受け、12月26日からイルミネーションを再開しました。高さ約7メートルのカリヨンには、一番上にあるハートの形をした電飾をはじめ、数千個の電球が飾りつけられました。



写真でつづる
まつもとの今昔②⑥
～晋山式～



昔

(1977.11 写真提供: 日本報道写真連盟)

晋山式は住職就任の祝典です。数十年に一度しか行われない行事で、第19世住職のときの稚児行列。



今

(2015.10.25 撮影)

第20世住職の稚児行列。同じ行事でも、着物や行列のとり方等に時代の違いが読み取れる。(写真は中山地区)

第31回松本市公民館研究集会

地域を学びでつなぎ 「暮らし」を創る～公民館の可能性～

日時: 2016年2月14日(日) 9:30～16:30 (受付9:00～)

会場: 松本市中央公民館 (Mウイング) 6階ホールほか

料金: 無料

◆〈開会式・感謝状贈呈式〉 9:30～10:00

◆パネルディスカッション 10:10～11:50

「未来に向けた 松本市の公民館の新たな可能性」

コーディネーター/松本市公民館運営審議会副委員長 御子柴 宏氏

パネラー/信州大学教授 井上 信宏氏・尼崎市顧問 船木 成記氏

◆分科会 13:00～16:30

- ①地域への主体的参加/②松本らしい地域づくり/③社会的弱者へのアプローチ/④地域資源の活用/⑤多様な連携による地域での子育て/⑥地域での防災・福祉/⑦若者と地域/⑧人材育成と担い手不足/⑨公民館のあり方

【参加申込方法】

2月8日(月)までに、氏名・住所・電話番号・参加を希望する分科会番号を最寄りの地区公民館、または下記事務局(生涯学習課・中央公民館)までお申し込みください。

また昼食(お弁当600円)、託児保育(無料)、手話・要約筆記通訳が必要な方はその旨お伝えください。参加無料。どなたでも参加いただけます。(当日参加も可能です)

松本市教育委員会 生涯学習課・中央公民館(事務局)

〒390-0811 松本市中央1-18-1 Mウイング 2階

TEL 0263-32-1132/FAX 0263-37-1153

E-mail gakushu@city.matsumoto.nagano.jp

おこひる

「こんにちは」後ろで声が出た。振り向くと下校中の子どもたちの笑顔、私も元気な声に添って挨拶をした。「やおお帰りなさい」

また元気な言葉が帰ってきた。「ただいま」午後少し疲れていた私に「元気という「氣」を子どもたちがくれた。まさに魔法の言葉だ」▼人と人との出会いは挨拶から始まるというが改めて挨拶の大切さを痛感した。しかし、こんな時もあった。他の地区に仕事に行ったとき今度は、私から先に子どもたちに挨拶をした。「こんにちはは、お帰り」足場の上のおじさんの声に下校中の子どもたちは振り向いたが、何も反応は示さずそのまま通り過ぎて行ってしまった▼次の子どもたちにも挨拶をした。また振り向いたが何も言わずに通り返した。地区によって子どもたちの挨拶が違う。何でこんなにも差があるのか不思議に思った。その地区の学校教育に関係があるのか、それとも地域性に関係があるのか▼それにしても今の大人も挨拶を交わすのが苦手みたいだ。もっと大人の方が元気な挨拶をして子どもたちに見本を示さなければとつくづく思った次第である。

地域探訪 歩まろう松本!

26

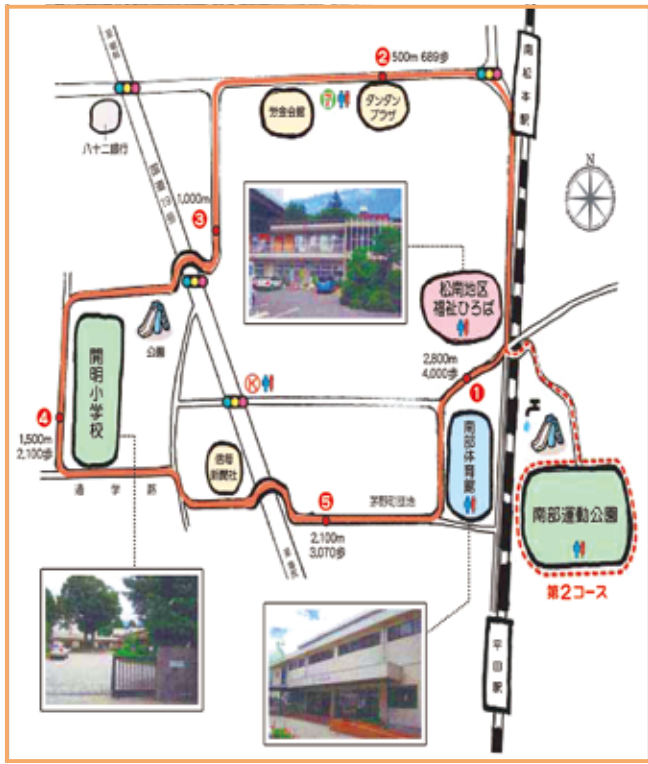
街中でも安全に 松南地区ウォーキングコース

松南地区ウォーキングコースは基本コースと第2コースがあります。基本コース距離は約3キロメートル、平坦で歩きやすく、所要時間は約40分、歩幅70センチメートルで歩数約4000歩、おむね129キロカロリーの消費です。

起点の松南地区福祉ひろば（なんぶくプラザ内）のすぐそばに、篠ノ井線宮田前踏切があります。ここからまず南松本駅に向かい、駅前の交差点から双葉町の広い駅前通りを西に向かいます。

この一帯には弥生時代の埋蔵文化財が豊富にあり、当時大きく栄えていたことが想像でき、太古へのロマンが掻き立てられます。（なんなんひろばカリヨン横に松南地区史跡マップがあります）

労働金庫の先の丁字路を左折して、その先の歩道橋を渡ります。ここから天氣の良い日は北アルプスの峰々が遠望



▲北アルプスの遠望

そのまま開明小学校に沿って歩き、信濃毎日新聞社前の歩道橋を渡ります。芳野町団地街を歩いて行くと南部体育館が見えてきて、そろそろ一回りしたかなあと、ホッとします。

第2コースは地区福祉ひろばから踏切を渡り、その南側にある南部運動公園を回る約1キロメートルのコースです。親子で楽しめるアスレチックがあり、自然も豊かで空気がいいですね。

体力に合わせ、それぞれ単独で歩いたり、組み合わせたりすることが出来るコースです。安全を考え、交通の激しいところは広い歩道のある道を選んでいきます。また、小学校の通学路も取り込んで防犯効果も狙った所には、歩く者だけではなく地域にも配慮した工夫を感じます。

わがまち自慢 第9回 寿田町「公民館開放日」

寿田町は寿地区でも珍しく市営住宅と個人住宅が混在しています。町会が一つになるためには人集めが不可欠と考え、町会の二割に当たる高齢者に公民館で遊んでもらおうと企画したのが「公民館開放日」の始まりです。

平成24年4月から年間20回行われ、約20人の方がたが、楽器の演奏を聴いたり、卓球やカラオケ、お茶を飲んだりと楽しい時間を過ごしています。この催しのおかげで、高齢者クラブが復活したり、町会の夏祭りや地区の行事に参加協力してくださるようになりました。

このほかにも月に1回の「居酒屋公民館」を持ち寄りで開催しています。毎回8〜10人が集まり、楽しいひとときを過ごしています。今後も人を集める企画をどんどん取り入れ、街づくりに励んでいきたいと久保田幸康町会長は話しました。



地産地消のかんたんレシピ

残りを使って 『白菜と豚肉のあんかけミルフィーユ』
白菜が美味しい冬の定番!!

材料：白菜、豚肉、ひき肉、片栗粉、砂糖、塩、しょう油

1. 白菜を1枚ずつ半分になり、ゆでる
2. 豚肉を湯通しする
3. ひき肉を炒めて砂糖・塩・しょう油で味付けし、片栗粉でトロミをつける
4. 白菜と豚肉を交互に重ねて切る
5. 深鉢に4を移して、3をかける

